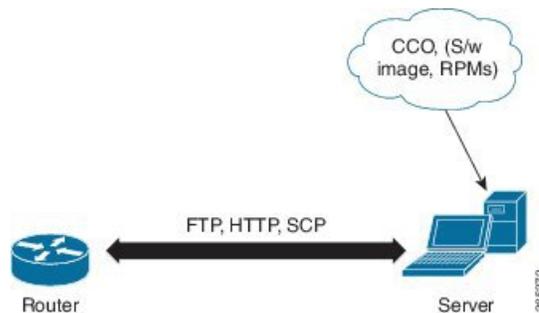




自動依存関係管理

フレキシブルパッケージでは、自動依存関係管理がサポートされます。RPM の更新中に、関連するすべての依存パッケージをシステムが自動的に特定し、それらを更新します。

図 1: インストールフロー（基本ソフトウェア、RPM、および SMU）



このリリースまでは、ソフトウェアイメージと必要な RPM をネットワークサーバー（リポジトリ）の CCO からダウンロードし、**install add** コマンドと **install activate** コマンドを使用してルータに追加し、アクティブにしています。さらに、関連する依存 RPM を手動で特定し、それらを追加してアクティブにしています。

自動依存関係管理を使用した場合は、依存 RPM を特定し、個別に追加およびアクティブにする必要がありません。新しいインストールコマンドを実行すると、依存 RPM は自動的にインストールされます。

install source コマンドは、パッケージを追加してアクティブにします。**install replace** コマンドは、特定のゴールデン ISO（GISO）にパッケージを追加してアクティブにします。



- (注) 1. Cisco IOS XR バージョン 6.1.1 では、サードパーティ製 SMU (**install source** コマンド) は、自動依存関係管理に含まれません。サードパーティ製 SMU は、他のインストール手順 (IOS XR の SMU および RPM、または管理コンテナのインストール) とは独立して、個別にインストールする必要があります。

これ以降で説明する内容は、次のとおりです。

- [RPM と SMU の更新 \(2 ページ\)](#)
- [基本ソフトウェア バージョンのアップグレード \(3 ページ\)](#)
- [RPM のダウングレード \(4 ページ\)](#)

RPM と SMU の更新

RPM には特定の不具合に対する修正が含まれており、その修正でシステムを更新する必要があります。RPM および SMU を新しいバージョンに更新するには、**install source** コマンドを使用します。特定の RPM に対してこのコマンドが発行されると、ルータによりリポジトリとの間で通信が行われ、RPM がダウンロードされてアクティブにされます。依存関係にある RPM がリポジトリにある場合、ルータによってその RPM も特定されてインストールされます。

install source コマンドの構文は次のとおりです。

install source リポジトリ [rpm]

install source コマンドは、次の 4 つの方法で実行できます。

- パッケージ名を指定しない。

パッケージ名を指定しないと、すべてのインストール済みパッケージがコマンドによって最新の SMU で更新されます。

```
install source [repository]
```

- パッケージ名を指定する。

パッケージ名を指定すると、そのパッケージがコマンドによってインストールされ、依存関係とともにそのパッケージの最新の SMU で更新されます。パッケージがすでにインストールされている場合、そのパッケージの SMU だけがインストールされます (すでにインストールされている SMU は、スキップされます)。

```
install source [repository] asr9k-mpls.rpm
```

- パッケージ名とバージョン番号を指定する。

パッケージの特定のバージョンをインストールする必要がある場合、完全なパッケージ名を指定します。このパッケージは、リポジトリにあるパッケージの最新の SMU とともにインストールされます。

```
install source [repository] asr9k-mpls-1.0.2.0-r710.x86_64.rpm
```

- SMU を指定する。

SMU を指定すると、その SMU は依存関係にある SMU とともにダウンロードおよびインストールされます。

```
install source [repository] asr9k-mpls-1.0.2.1-r611.CSCub12345.x86_64.rpm
```

基本ソフトウェアバージョンのアップグレード

基本ソフトウェアは、新しいバージョンが利用可能になった場合に、新しいバージョンにアップグレードできます。基本ソフトウェアを最新バージョンにアップグレードするには、**install source** コマンドを使用します。ベースバージョンをアップグレードすると、ルータで現在利用可能な RPM もアップグレードされます。



(注) SMU は、このプロセスの一部としてアップグレードされません。

install source コマンドの構文は次のとおりです。

```
install source repository
```



(注) データポート上の VRF および TPA はサポートされません。デフォルト以外の VRF インターフェイスを介してしかサーバーにアクセスできない場合、ファイルは、ftp、sftp、scp、http、または https プロトコルを使用してすでに取得しておく必要があります。



(注) TPA を実装しているため、デフォルトルート (0.0.0.0) は Linux にコピーできません。

install source コマンドを使用するのは次の場合です。

- バージョン番号を指定する

基本ソフトウェア (.mini) は、特定のバージョンにアップグレードされます。すべてのインストール済み RPM も、同じリリースバージョンにアップグレードされます。

```
install source [repository] version <version>  
asr9k-mini-x64-<version>.iso
```

次の例を参考にしてください。

```
install source repository version 7.0.1 asr9k-mini-x64-7.0.1.iso
```

必要なリリースの .mini ファイルと RPM を自動的に取得して、アップグレードを続行することもできます。

```
install source repository asr9k-mini-x64-7.0.1.iso
```

- RPM のバージョン番号を指定する

システムアップグレードを実行する場合、ユーザーはオプションの RPM (基本ソフトウェアのバージョンのリソースとは異なるリリース) を選択できます。つまり、RPM を指定できます。

```
install source repository version 7.0.1  
asr9k-mpls-1.0.2.0-r701.x86_64.rpm
```

RPM のダウングレード

RPM は、アクティブ化後にダウングレードできます。RPM には次のタイプがあります。

- **hostos RPM** : RPM の名前に `hostos` が含まれています。

次に例を示します。

- `<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1-r651.CSChu77777.host.arm`
- `<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1-r651.CSChu77777.admin.arm`
- `<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1-r651.CSChu77777.host.x86_64`
- `<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1-r651.CSChu77777.admin.x86_64`

- **hostos 以外の RPM** : RPM の名前に `hostos` が含まれていません。

次に例を示します。

- `<platform>-sysadmin-system-6.5.1-r651.CSCvc12346`

RPM を非アクティブにするには、次の手順を実行します。

- **hostos RPM のダウングレード**

- シナリオ 1 : アクティブバージョンの 09 からバージョン 06 にダウングレードするには、次の手順を実行します。

1. バージョン 06 の `hostos RPM` をダウンロードし、その RPM を追加します。

```
install add source [repository]
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.06-r65108I.CSChu44444.host.arm
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.06-r65108I.CSChu44444.admin.arm
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.06-r65108I.CSChu44444.host.x86_64
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.06-r65108I.CSChu44444.admin.x86_64
```

2. ダウンロードした RPM をアクティブにします。

```
install activate [repository]
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.06-r65108I.CSChu44444.host.arm
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.06-r65108I.CSChu44444.admin.arm
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.06-r65108I.CSChu44444.host.x86_64
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.06-r65108I.CSChu44444.admin.x86_64
```

3. 設定をコミットします。

```
install commit
```

- シナリオ 2 : ベース RPM をアクティブにして `hostos RPM` を非アクティブにします。バージョン 09 がアクティブであると見なします。

1. ベース RPM をアクティブにします。

```
install activate <platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.08I-r65108I.admin.arm
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.08I-r65108I.host.arm
```

```
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.08I-r65108I.admin.x86_64  
<platform>-sysadmin-hostos-6.5.1.08I-r65108I.host.x86_64
```

たとえば、RPM がインストール済みの RPM の場合、はベース RPM です。

2. 設定をコミットします。

```
install commit
```

サードパーティ製の RPM のダウングレードは、hostos RPM と同様です。SMU をダウングレードするには、SMU の下位バージョンをアクティブにします。存在する SMU のバージョンが 1 つのみの場合は、その SMU のベース RPM をアクティブにする必要があります。



-
- (注) hostos とサードパーティ製の RPM を非アクティブにすることはできません。異なるバージョンのアクティブバージョンのみがサポートされています。
-

• hostos 以外の RPM のダウングレード

1. RPM を非アクティブにして、以前のバージョンの RPM にダウングレードします。

```
install deactivate <platform>-<rpm-name>
```

2. RPM のアクティブなバージョンを確認します。

```
show install active
```

3. 設定をコミットします。

```
install commit
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。